

## 日 薬 定 例 記 者 会 見 要 旨

日 時：令和7年7月2日（水）12：30～13：00

場 所：日本薬剤師会 第一会議室

出席者：岩月会長、原口副会長、上野専務理事

### 内容・提出資料：

#### 1. こども家庭庁「こどもの悩みを受け止める場」に関する意見交換会（6月27日）

岩月会長より、掲題の件について説明された。主な内容は以下の通り。

令和6年11月、こども家庭庁は、こどもが安心して悩みを打ち明けられる環境づくりの課題や、大人に求められる対応を明らかにすることを目的に、「こどもの悩みを受け止める場に関するプロジェクトチーム」（PT）を発足した。

6月27日、このPTの取組の一環として、こども家庭庁が三原じゅん子こども政策担当大臣と、本会との意見交換会を開催し、岩月、渡邊副会長、富永常務理事が出席した。近年深刻化する医薬品の過剰摂取（オーバードーズ）といった、こどもを取り巻く喫緊の課題に対し、薬剤師が地域の中で果たす役割の重要性について主に意見が交わされ、三原大臣からは、こどもが直面する多様な問題について「社会全体で取り組むべき重要な課題」であるとし、本会への協力要請があった。大臣は、オーバードーズの背景には、子供たちのメンタルの問題が深く関わっており、想定より深刻であると受け止めていただいていた様子であった。

岩月からは、薬剤師がこれまでも一般用医薬品の販売を通じて過剰摂取対策に取り組んできたことに触れ、薬局店頭での啓発ポスターの掲示や、警視庁等との連携による薬物乱用防止活動の実績を紹介。薬局も地域でこどもを守るための『場』として、メンタルの問題が背景にあることを意識しながら、様々な職種と連携していきたいとお伝えした。今回の協議を通じて、こども家庭庁と日本薬剤師会は、こどもが安心して悩みを打ち明けられる環境づくりに向け、今後も継続的に協力していくことを確認した。

#### 2. ミャンマー地震に係る義援金募集の結果について

（令和7年6月24日 日薬発第94号）

岩月会長より、掲題の件について説明された。主な内容は以下の通り。

ミャンマー大地震により甚大な被害を受けた被災地への義援金の募集を行ったところ、6月5日までに会員、薬局、薬剤師会等から2,675,657円にのぼる義援金が寄せられた。本会より500,000円を追加した総額、3,175,657円を、6月中旬に日本赤十字社「2025年ミャンマー地震救援金」へ全額送金し、都道府県薬剤師会を通じて会員に報告したところである。

#### 3. ICカードの調達不調に伴う管理薬剤師への優先発行の解除について

（令和7年6月20日 日薬情発第54号）

原口副会長より、掲題の件について説明された。主な内容は以下の通り。

昨年12月19日付、日薬情発第151号「ICカードの調達不調に伴う管理薬剤師への優先発行について」において、本会の薬剤師資格証の発行については、令和3年以降続いているICカードの調達不調を受け、認証局審査事務局に届いた申請書類のうち、昨年12

月 23 日以降の消印のものについては、「管理薬剤師」の区分の申請に限り優先的に薬剤師資格証の審査・発行を行ってきた。この度、IC カードの調達が完了したため、優先発行を解除し、全ての区分の申請者について順次審査を進めていくこととした。このことについて、都道府県薬剤師会を通じて会員に周知したところである。

#### 4. 令和 7 年度第 2 回都道府県会長協議会の開催について

(令和 7 年 6 月 24 日 日薬発第 95 号)

上野専務理事より、今年度 2 回目となる都道府県会長協議会が、7 月 24 日 (木) 13 時 30 分より開催される旨、案内された。

#### 5. 令和 7 年度「薬と健康の週間」の実施について

(令和 7 年 6 月 27 日 日薬発第 93 号)

上野専務理事より、掲題の件について説明された。主な内容は以下の通り。

同週間は、医薬品及び薬剤師等の専門家の役割に関する正しい認識を広く国民に浸透させることにより、国民の保健衛生の維持向上に寄与することを目的として実施されている。本年度も厚労省医薬局長より通知されたため、都道府県薬剤師会を通じて会員に周知したところである。

#### 6. 令和 7 年度日本薬剤師会学校薬剤師賞の授賞および同学校薬剤師活動協力者感謝状の贈呈について (令和 7 年 7 月 1 日 日薬発第 107 号)

上野専務理事より、掲題の件について説明された。主な内容は以下の通り。

6 月 24 日に行われた本会選考委員会の慎重審議の結果、日本薬剤師会学校薬剤師賞授賞者 10 名、同学校薬剤師活動協力者感謝状贈呈者 9 名が決定した。表彰式は、11 月 20 日に予定されている、第 75 回全国学校薬剤師大会開会式(横浜市)と併せて執り行う予定である。

主な質疑応答は以下のとおり。

〈こども家庭庁との意見交換を終えて〉

記者：こども家庭庁との意見交換を終えていかがか。

岩月会長：意見交換では、養護教諭にこれからオーバードーズをするとした後に事に及ぶ子供たちがいること、メンタルや孤立の問題を抱えている子ども同士が、ネット上ではつながっていてオーバードーズに関する情報を交換しているといったことをお伝えした。こうした現状は、一般用医薬品の販売制限だけでは解決しない、如何に専門家に繋ぐかが課題という点で意見が一致した。今後、行政が主導で、各市区町村に相談窓口等が設けられる際には、積極的に参加、協力させていただくと申し上げた。

記者：日本チェーンドラッグ協会が、医薬品医療機器等法の改正案で、新たな医薬品のカテゴリーとして設けられた「指定乱用防止医薬品」の販売に関するガイドラインを策定中だが、貴会での対応はいかがか。

上野専務理事：これまで本会で作成した一般用医薬品の販売ガイドラインや資材を見直す中で、特に指定乱用防止医薬品に関する部分について何らかの対応を取る方向で、担当委員会での検討を進めている。

今回の定例記者会見は、令和 7 年 7 月 25 日 (金) 16 : 00 ~ を予定。